



2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年5月13日

上場会社名 株式会社メディネット 上場取引所 東
 コード番号 2370 URL <https://www.medinet-inc.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久布白 兼直
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 落合 雅三 TEL 03-6631-1201
 半期報告書提出予定日 2026年5月14日 配当支払開始予定日 ー
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	414	2.3	△629	—	△516	—	△551	—
2025年9月期中間期	404	1.3	△755	—	△710	—	△705	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	△2.06	—
2025年9月期中間期	△2.67	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
2026年9月期中間期	3,987		3,574		89.4
2025年9月期	4,254		3,777		88.8

(参考) 自己資本 2026年9月期中間期 3,564百万円 2025年9月期 3,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年9月期の業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	943	16.4	△1,454	—	△1,449	—	△1,453	—	△5.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期中間期	277,417,319株	2025年9月期	264,729,198株
② 期末自己株式数	2026年9月期中間期	64株	2025年9月期	64株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年9月期中間期	267,686,182株	2025年9月期中間期	264,565,777株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】P.4「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。
- ・当社は、2026年5月27日（水）に機関投資家及び証券アナリスト向けにオンラインによる決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。また、決算説明資料については、東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）にも掲載します。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況.....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況.....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 中間財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間貸借対照表	5
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間(2025年10月1日から2026年3月31日まで)においては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、各国における金融政策の動向やインフレ圧力の継続に加え、為替相場や資源価格の変動、地政学的リスクの高まり等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社は、事業の中核である医療機関向け特定細胞加工物の製造に加え、企業等に向けたCDMO事業の展開や再生医療等製品の開発の加速など、新たなビジネス領域の拡大を通じ、早期の収益構造の改善に取り組んでおります。しかしながら、当社を取り巻く事業環境は引き続き厳しい状況にあります。

こうした中、当社は引き続き、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」及び「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく法的枠組みの下、新たなビジネス展開による事業拡大に向けた取り組みを進めるとともに、特定細胞加工物の受託拡大やCDMO事業の基盤強化を通じて、収益構造の改善に注力しております。

この結果、当中間会計期間における経営成績は以下のとおりとなりました。

(金額単位：百万円)

	売上高	営業損失(△)	経常損失(△)	中間純損失(△)	1株当たり 中間純損失 (△)
当中間会計期間	414	△629	△516	△551	△2.06円
前中間会計期間	404	△755	△710	△705	△2.67円
増減率(%)	2.3	—	—	—	—

当中間会計期間においては、「特定細胞加工物製造業」では、株式会社資生堂より技術提供を受けたS-DS C®に係る細胞加工件数が前年を上回ったものの、免疫細胞の加工件数が一部の取引先医療機関において日本への渡航規制が実施されていた国からの海外患者の低減により減少しました。また「バリューチェーン事業」において、施設運営管理料売上が減少した一方で、「CDMO事業」では、ティーセルヌーヴォー株式会社からの新規の治験製品製造受託のための技術移転の進展に対応する技術移転一時金を売上計上した結果、売上高は414百万円(前年同期比2.3%増)となりました。損益面につきましては、売上原価低減の取組みに加え、CDMO事業における技術移転一時金売上の計上等により売上総利益は大幅に増加し、116百万円(前年同期比97.5%増)、研究開発費、販売費及び一般管理費のいずれもが減少したことにより販売費及び一般管理費は746百万円(前年同期比8.4%減)となり、営業損失は629百万円(前年同期は営業損失755百万円)となりました。また、投資事業組合運用益103百万円(前年同期比244.2%増)等の営業外損益により、経常損失は516百万円(前年同期は経常損失710百万円)、保有する投資有価証券のうち一部銘柄について減損処理を実施し、投資有価証券評価損33百万円を特別損失として計上した結果、中間純損失は551百万円(前年同期は中間純損失705百万円)となりました。

報告セグメント別の経営成績の概況は、以下のとおりであります。

(金額単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	中間損益計算書 計上額(注)2	
	細胞加工業		再生医療等製品事業			売上高	セグメント 損失(△)
	売上高	セグメント 損失(△)	売上高	セグメント 損失(△)	セグメント 損失(△)		
当中間会計期間	413	△174	0	△177	△278	414	△629
前中間会計期間	404	△231	0	△216	△307	404	△755

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額は、全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っています。

① 細胞加工業

細胞加工業については、細胞加工業の3つのビジネス領域(「特定細胞加工物製造業」・「CDMO事業」・「バリューチェーン事業」)の拡大に向けて積極的な活動を展開しております。当中間会計期間においては、「特定細胞加工物製造業」では、株式会社資生堂より技術提供を受けたS-DS C®に係る細胞加工件数が前年を上回った一方、免疫細胞の加工件数が一部の取引先医療機関において日本への渡航規制が実施されていた国からの海外患者の低減により減少した結果、売上高は270百万円(前年同期比9.9%減)となりました。「CDMO事業」では、

ティーセルヌーヴォー株式会社からの新規の治験製品製造受託のための技術移転の進展に対応する技術移転一時金を売上計上したことにより、売上高は大幅に増加し111百万円(前年同期比118.4%増)、「バリューチェーン事業」では、医療機器販売が発生したものの、施設運営管理料売上が減少したこと等により、売上高が31百万円(前年同期比40.8%減)となった結果、売上高は413百万円(前年同期比2.3%増)となりました。売上原価につきましては、細胞加工施設において一部の費用配賦方法の見直しを行ったことに加え、売上原価低減の取組みの効果等により低減しました。その結果、CDMO事業における技術移転一時金売上の計上等も寄与し、売上総利益は大幅に増加しました。販売費及び一般管理費は、新規骨再生細胞加工技術の開発費の増加や細胞加工受託の体制整備に係る費用の増加があった一方で、効率的なプロモーション活動の推進等による支出の減少により、前年同期並みの水準となり、セグメント損失は174百万円(前年同期はセグメント損失231百万円)となりました。

② 再生医療等製品事業

再生医療等製品事業については、Stempeutics社との間で、同社が創製し、インドで製造販売承認を取得している同種間葉系間質細胞製品「Stempeucel®」(開発コード:MDNT-03)につき、日本における包括的高度慢性下肢虚血を対象とした開発・商業化に関するオプション・ライセンス契約を締結し、本製品の独占的開発・商業化権に係るオプション権を取得しております。今後は、当該オプション権の行使を行い、早期の治験開始に向けて研究開発活動を推進する予定です。一方、国内開発方針の早期決定を目指しているMDNT-01(NeoCart®)については、ライセンス元であるOcugen社の開発体制変更に伴い、NeoCart®の開発が子会社OrthoCellix社へ移管されましたが、米国における治験製品の製造体制整備の遅れにより、追加第Ⅲ相試験の開始が遅延しております。当社は、当該米国での開発状況を踏まえ、国内開発方針を2026年9月期中に決定する予定です。なお、当中間会計期間においては、売上高は0百万円(前年同期比48.4%増)となり、研究開発費の減少等によりセグメント損失は177百万円(前年同期はセグメント損失216百万円)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(財政状態)

	前事業年度末	当中間会計期間末	増減
資産合計(百万円)	4,254	3,987	△266
負債合計(百万円)	476	412	△63
純資産合計(百万円)	3,777	3,574	△202
自己資本比率(%)	88.8	89.4	0.6
1株当たり純資産(円)	14.27	12.85	△1.42

資産合計は、前事業年度末に比べて266百万円減少し、3,987百万円となりました。主な要因は現金及び預金の増加258百万円、売掛金の増加79百万円、有価証券の減少500百万円、投資有価証券の減少94百万円です。

負債合計は、前事業年度末に比べて63百万円減少し、412百万円となりました。主な要因は、流動負債及び固定負債に計上されている株式報酬引当金の減少50百万円です。

純資産合計は、前事業年度末に比べて202百万円減少し、3,574百万円となりました。主な要因は、新株の発行に伴う資本金の増加173百万円及び資本準備金の増加173百万円、中間純損失計上に伴う利益剰余金の減少551百万円です。なお、第30回定時株主総会決議に基づく欠損填補による資本金1,358百万円及び資本準備金3百万円の減少並びに利益剰余金1,362百万円の増加があります。

以上の結果、自己資本比率は、前事業年度末の88.8%から89.4%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べて258百万円増加し、2,928百万円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって使用した資金は652百万円(前年同期は754百万円の使用)となりました。

これは主に、税引前中間純損失550百万円、売上債権の増加79百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって獲得した資金は561百万円(前年同期は1,543百万円の使用)となりました。

これは主に、有価証券の償還による収入500百万円、投資事業組合からの分配による収入98百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって獲得した資金は349百万円(前年同期は2百万円の使用)となりました。

これは主に、株式の発行による収入342百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、2025年11月13日に公表しました業績予想から変更はございません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、がん免疫療法市場の環境変化に伴う細胞加工業の売上急減後、回復が十分でないことに加え、再生医療等製品事業分野における自社製品の開発進捗、新規開発候補品の導入評価等に伴う支出が累増しているため、継続的に営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローが発生しており、継続企業の前提に疑義を生じさせるリスクが存在しております。

しかしながら、当社は、細胞加工業セグメントにおいては、特定細胞加工物の受託拡大と新規のCDMO案件の獲得等によって売上高の回復を図るとともに、製造体制の適正化による原価の低減、販売費の効率化等を推進することにより、同セグメントのセグメント利益の黒字回復を目指しております。また、再生医療等製品事業セグメントにおいては、早期の製造販売承認の取得に向けて有望でかつ可能性の高いシーズを優先して開発を進めるとともに、再生医療等製品の開発費等については資金状況を勘案の上、機動的に資金調達を実施してまいります。現状では、2019年6月の第14回及び第15回、2020年7月の第16回、2020年9月の第17回、2021年9月の第18回、2023年3月の第19回並びに2025年12月の第20回新株予約権の発行による再生医療等製品開発費の資金調達等により、安定的なキャッシュポジションを維持しており、当面の資金繰りに懸念はないものと判断しております。これらに加えて、当社における当中間会計期間末の資金残高の状況を総合的に検討した結果、事業活動の継続性に疑念はなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当中間会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,170,097	2,428,146
売掛金	255,760	335,678
有価証券	1,000,000	500,000
商品及び製品	—	10,500
仕掛品	21,521	42,268
原材料及び貯蔵品	28,228	28,816
その他	136,008	94,402
流動資産合計	3,611,617	3,439,811
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	283,465	257,837
その他(純額)	73,155	75,827
有形固定資産合計	356,621	333,664
無形固定資産	67,987	92,417
投資その他の資産		
投資有価証券	154,550	59,994
長期貸付金	459,250	456,750
その他	86,761	85,040
貸倒引当金	△482,718	△480,218
投資その他の資産合計	217,843	121,566
固定資産合計	642,452	547,647
資産合計	4,254,070	3,987,459
負債の部		
流動負債		
買掛金	41,074	59,776
未払法人税等	10,507	12,159
賞与引当金	72,176	67,025
株式報酬引当金	—	4,197
その他	109,351	95,602
流動負債合計	233,110	238,761
固定負債		
資産除去債務	162,195	163,223
株式報酬引当金	65,646	10,825
その他	15,546	75
固定負債合計	243,387	174,124
負債合計	476,497	412,886
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,102,250	3,930,916
資本剰余金	3,850	186,954
利益剰余金	△1,362,138	△551,351
自己株式	△4	△4
株主資本合計	3,743,957	3,566,515
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	33,615	△1,854
評価・換算差額等合計	33,615	△1,854
新株予約権	—	9,911
純資産合計	3,777,572	3,574,573
負債純資産合計	4,254,070	3,987,459

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	404,787	414,046
売上原価	345,806	297,543
売上総利益	58,981	116,503
販売費及び一般管理費	814,860	746,382
営業損失(△)	△755,879	△629,879
営業外収益		
受取利息	6,125	7,804
貸倒引当金戻入額	3,100	2,500
投資事業組合運用益	30,181	103,893
加工中断収入	5,350	3,093
その他	1,817	2,819
営業外収益合計	46,573	120,110
営業外費用		
支払利息	5	—
為替差損	8	14
株式交付費	1,514	1,399
社債発行費等	—	5,658
営業外費用合計	1,529	7,072
経常損失(△)	△710,835	△516,841
特別利益		
投資有価証券売却益	7,281	—
特別利益合計	7,281	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	33,160
特別損失合計	—	33,160
税引前中間純損失(△)	△703,553	△550,001
法人税、住民税及び事業税	2,105	1,350
法人税等合計	2,105	1,350
中間純損失(△)	△705,658	△551,351

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失(△)	△703,553	△550,001
減価償却費	49,787	47,934
株式報酬費用	3,258	3,850
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,463	△5,150
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3,100	△2,500
株式報酬引当金の増減額(△は減少)	12,250	△50,623
受取利息及び受取配当金	△6,125	△7,804
支払利息	5	—
投資事業組合運用損益(△は益)	△30,181	△103,893
株式交付費	1,514	1,399
社債発行費等	—	5,658
投資有価証券売却損益(△は益)	△7,281	—
投資有価証券評価損益(△は益)	—	33,160
売上債権の増減額(△は増加)	△73,849	△79,917
棚卸資産の増減額(△は増加)	△8,452	△31,834
破産更生債権等の増減額(△は増加)	600	—
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,776	18,702
未払金の増減額(△は減少)	△16,580	△4,527
未払又は未収消費税等の増減額	5,372	14,710
その他	26,258	52,530
小計	△755,316	△658,307
利息及び配当金の受取額	5,205	8,198
利息の支払額	△5	—
法人税等の支払額	△4,145	△2,741
営業活動によるキャッシュ・フロー	△754,262	△652,850
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,000,000	—
有形固定資産の取得による支出	△11,582	△13,619
無形固定資産の取得による支出	△234	△27,610
有価証券の取得による支出	△500,000	—
有価証券の償還による収入	—	500,000
投資有価証券の取得による支出	△41,612	—
投資有価証券の売却による収入	7,281	—
長期貸付金の回収による収入	2,500	2,500
投資事業組合からの分配による収入	—	98,724
その他	—	1,020
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,543,647	561,015
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	—	342,957
株式の発行による支出	△1,655	—
新株予約権の発行による収入	—	6,925
リース債務の返済による支出	△424	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,079	349,883
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,299,989	258,048
現金及び現金同等物の期首残高	4,651,181	2,670,097
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,351,191	2,928,146

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間損益 計算書計上額 (注) 2
	細胞加工業	再生医療等 製品事業	計		
売上高					
特定細胞加工物製造業	300,622	—	300,622	—	300,622
CDMO事業	51,135	—	51,135	—	51,135
バリューチェーン事業	52,842	—	52,842	—	52,842
ライセンス収入	—	186	186	—	186
顧客との契約から生じる 収益	404,600	186	404,787	—	404,787
外部顧客への売上高	404,600	186	404,787	—	404,787
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	404,600	186	404,787	—	404,787
セグメント損失(△)	△231,709	△216,711	△448,421	△307,458	△755,879

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△307,458千円は、全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当中間会計期間(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間損益 計算書計上額 (注) 2
	細胞加工業	再生医療等 製品事業	計		
売上高					
特定細胞加工物製造業	270,774	—	270,774	—	270,774
CDMO事業	111,687	—	111,687	—	111,687
バリューチェーン事業	31,307	—	31,307	—	31,307
ライセンス収入	—	276	276	—	276
顧客との契約から生じる 収益	413,770	276	414,046	—	414,046
外部顧客への売上高	413,770	276	414,046	—	414,046
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	413,770	276	414,046	—	414,046
セグメント損失(△)	△174,051	△177,283	△351,335	△278,543	△629,879

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△278,543千円は、全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年12月17日開催の第30回定時株主総会の決議に基づき、2026年1月31日付で繰越利益剰余金の欠損填補を行いました。この結果、資本金が1,358,288千円、資本剰余金が3,850千円減少し、利益剰余金が1,362,138千円増加しましたが、株主資本の合計金額には変動はありません。

また、当社は2026年2月16日付で当社取締役に対する譲渡制限付株式報酬としての新株式発行及び当社従業員に対する譲渡制限付株式ユニット付与制度に基づく株式報酬としての新株式発行を行いました。この結果、資本金及び資本剰余金がそれぞれ13,764千円増加しました。

さらに、当社が2025年12月23日に発行した第20回新株予約権について、新株予約権の権利行使が行われました。この結果、資本金及び資本剰余金がそれぞれ173,190千円増加しました。

以上の結果、当中間会計期間末において資本金が3,930,916千円、資本剰余金が186,954千円、利益剰余金が△551,351千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。